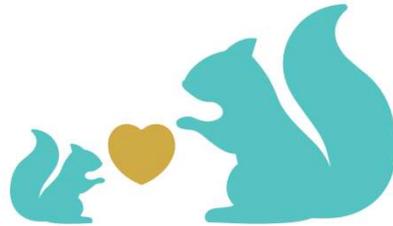




AMRITA Silent Retreats online

帰還体験



至高の愛



前回の 5 日間のサイレントリトリート中のことです。ミトラアマリタが参加者に歓迎の言葉を述べていて、シャンティ・マンディラムのリトリートホールは、暖かで心地よい雰囲気満ちていました。けれども、ほんの一緒に、全てが変化しました。ミトラアマリタがスケジュールについて話していたとき、可愛らしいリスの赤ちゃんが、9m もの高さの梁から、硬いタイルの床に落下してきたのです。

仔リスは、考えられないような強さで床に打ち付けられたはずでしたが、なんとか四肢をうまく使って衝撃に耐えたようでした。傷つき呆然としながら、それでも勇敢に、何度か頭を振って、小さいリスはフルスピードでダッシュし始めました…

…仔リスは、リトリート参加者の長い茶色の三つ編みを駆け上がりました。その髪は、実は、仔リスの巣と同じ色合いだったのです。仔リスは彼女の頭の上で、注意深く静かに待っていました。

中継カメラを操作していたシャナが、できうる限りの優しさと配慮をもって、巻いていたストールで仔リスを包み上げ、人々から遠ざけました。仔リスの心臓は激しく打っていました。プラーナダがそこにいたのは幸運でした。彼女はその仔が落ち着けるよう、あたたかで安全な巣をつくるのが必要だと知っていました。そこでなら、心臓の鼓動を通常に戻せるでしょう。

その頃、ホールでは、オリエンテーションが続いていて、母リスは大慌てで天井の梁を行ったり来たりし、いなくなった仔を必死に探していました。

母リスが探している、という話がチームの皆に伝わりました。母リスから仔リスが見えたら連れ帰ることができるように、透明なプラスチックの箱に仔リスを入れて、ホールに運びました。残念ながら、ホールにはたくさん人間がいて、さらに床と梁の間は何メートルも離れていたのです、母リスは何ともできません。母リスは何度も何度も走ったり戻ったりし、鉄の梁の端から箱の近くに飛び降りようと、距離を測ったりしていました。けれど遠すぎました。

オリエンテーションが終わり、参加者がいなくなったので、赤ちゃんリスの入った箱が、柱と天井梁がちょうど交差する場所に置かれました。チームの皆は、これで母親が赤ん坊のところまで来られるのでは、と期待しました。

リスというのは、私たち人間のように、生き延びる為に母親が必要なので、チームの皆は本当に心配していました。親子を再び一緒にするにはどうしたら良いのか、と。

夕暮れは深まり、状況は深刻になっていきました。チームは、アムリタプリで一番リスに詳しいサルヴァガに連絡を取り、仔リスが母親を求めて鳴く鳴き声の録音を貰いました。

ミトラアムリタは、携帯電話に“仔リスの助けを呼ぶ声”をダウンロードして、仔リスの入っている箱の隣でそれを再生し、母親に仔リスの居場所がわかるようにしました。

チームの皆には、暗くなると母リスは目が見えないので出てこない、というのがわかっていました。ですから時間こそが要でした。

突然、母リスは戦略を変え、シャンティ・マンディラムの1番東側に生えているコナッツの木に登ったり降りたりし始めました。

チームは仔リスの入った箱を、その木のすぐ隣にあった、水のタンクの上に置きました。母親はそこに赤ん坊がいるのを感じ取りながらも、見えていないようでした。母親はにじり寄って箱にかなり近づきましたが、中に子供がいるとわからなかったようでした。シャナは走って梯子を持ってきて、箱を傾け、中に息子がいるのが母親に見えるようにしました。それは非常に敏捷な動きでした。シャナが、箱を少しでもあちら側かこちら側に大きく傾けていたら、仔リスは、高い位置にある箱から落ちてしまっていたはずです。

何時間も努力し、すっかり夜も更けたので、チームはもうこれ以上できることはない判断しました。そして仔リスをマンディラムの見えやすい床の上に残し、そばに仔リスの助けを呼ぶ声を再生するコンピュータを置きました。彼らがちょうどそこを離れようとしたとき、影が壁をダッシュしていくのが見えました。それは母親のリスでした。降りてこようとしていたのです。子供を救いたくて必死でした。母親は勇気を奮い起こして、壁からキャビネットの天板に、そしてキャビネットの天板から4メートル下の床に、ジャンプしました。それを見た誰もが、彼女は不可能を可能にした、と話しました。純粋な愛が彼女に限界を超えさせたのです。

彼女は子供に向かって全速力で走り、仔の首もとをつかんでボールのように丸めて、仔の安全を保ちながら、小走りに壁をあがっていきました。

そのあとの2~3日、チームの皆は目を皿のようにして、仔リスがいないか気をつけていましたが、見つかりませんでした。誰もが最悪の状況を恐れていました。4日目になってついに、ココナツツの木に、母親を追って元気に駆け上がっていく仔リスの様子が発見されました。

この生き物に起きた危機は、アムリタ・サイレント・リトリートのセヴァチーム全員の、母性愛を目覚めさせました。そして、困難な状況にいる誰かに対して、私たちの優しさと配慮が、いつ必要になるのかは、その時にならないとわからない、ということを感じさせてくれました。

本当に、この世界で母の愛以上に力強くかつ変現自在な力はありません。母リスが仔に対してここまでのことができるのなら、私たちの聖なる母について、なんと表現したらいいでしょう。私たちの生活の毎瞬間にアンマがいらっしやることは、なんと祝福でしょうか。暮らしの中で出会う人々に、この愛のひとかけらをシェアする機会に恵まれている恩寵といたら。

2021年2月9日/文: ルドラン・ケヴィン・デグナン